

平成27年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	リウマチ・アレルギー特別対策事業			担当部局庁	健康局	作成責任者		
事業開始年度	平成18年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	疾病対策課	課長：田原 克志		
会計区分	一般会計			政策・施策名	I-5-2 治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実させること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策				主要経費	社会保障			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症等のリウマチ・アレルギー性疾患患者は国民の2人に1人に上ると言われており、患者数や国民の関心も高い重要な問題となっていることから、都道府県の実情に応じた各種事業を実施し、患者や家族ひいては国民一般からの悩みや不安の解消を図る。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	①医療従事者向けの研修を実施し、専門医等の人材育成を行う。 ②一般国民向けに自己管理(セルフケア)の観点からのシンポジウム開催等リウマチ・アレルギー性疾患に関する正しい知識の啓発活動を実施し重症化防止を図る。 【補助率】1/2							
実施方法	補助							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
		計	7	6	6	5	5	
	執行額	2	1	2				
執行率(%)	29%	17%	33%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 毎年度
	前年度実績同数以下	気管支喘息死者数の減少	成果実績	人	1,874	1,728	集計中	
			目標値	人	2,060	1,874	1,728	前年度以上
			達成度	%	91%	92%	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	事業実施自治体数	活動実績	件	4	3	5		
		当初見込み	件	12	12	12	12	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	単位当たりコスト=X/Y		単位当たりコスト	円	500,000	333,333	400,000	400,000
	X:「執行額」 Y:「事業実施自治体数」		計算式	X/Y	2,000,000/4	1,000,000/3	2,000,000/5	2,000,000/5
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	疾病予防対策事業費等補助金	5	5					
	計	5	5					

事業所管部局による点検・改善						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	リウマチ・アレルギー疾患患者やその家族、ひいては国民一般からの悩みや不安の解消を図るための事業であり、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	民間療法を含め膨大な情報が氾濫しており、国が確かな情報を発信する必要がある。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	リウマチ・アレルギー疾患患者に対する様々な事業を実施し、悩みや不安の解消を図るといふ政策目的達成に向けて、優先度の高い事業である。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	自治体向け補助金として、支出先の選定は妥当である。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	単位当たりコストの水準は妥当である。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	費目・使途は事業目的に即している。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		△	自治体からの交付申請件数が少なかったため。		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-	-			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	成果目標に対して大きな乖離はなく、見合ったものとなっている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	自治体向け補助金として地域の実情にあわせた実効性の高い手段となっている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	事業実施自治体数については、自治体からの申請に左右される部分が大きいいため、件数の増加には至っていない。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	喘息死者数も減少傾向にあり、引き続き事業を実施する必要がある。平成24年度から補助先に政令指定都市及び中核市を加え、事業実施対象を拡大したが、平成24～26年度の事業実施自治体数は同数程度にとどまっていることから、事業実施自治体数の拡大を図る必要がある。				
	改善の方向性	事業については、各自治体において講習会の開催や患者情報を共有するための協議会の開催の経費等を補助しているところであり、有意義なものであることから、今後においては事業実施自治体数が増加するよう、引き続き事業についての周知していくこととしている。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
一部改善の	過去の不用率が大きいことから、その要因分析と今後の見込みを検証した上で、必要な予算額を確保するとともに、適正な執行を行うこと。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	アレルギー疾患基本法が施行されることに伴い、本事業を活用する都道府県が増加することを見込んだため、ほぼ同額要求となっている。引き続き、必要な予算額を確保しつつ、適正な執行に努める					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	160	平成23年度	137	平成24年度	110	
平成25年度	127	平成26年度	138			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
2百万円

〔 交付申請書の内容審査、交付決定、等 〕



【補助】

A.都道府県(5)
2百万円
(内訳)
千葉県 0.4百万円
岐阜県 0.3百万円
静岡県 0.05百万円
滋賀県 0.8百万円
高知県 0.03百万円

〔 ・医療従事者向けの研修の実施
・国民向けの正しい知識の普及啓発事業の実施
・研修やホームページを活用した診療ガイドラインの普及の実施 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.千葉県			E.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	報償費	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0.2			
	旅費	"	0			
	需用費	"	0			
	食糧費	"	0			
	委託料	"	0.9			
	委託料	"	0.6			
	計		1.7	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	滋賀県	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0.8	—	—
2	千葉県	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0.4	—	—
3	岐阜県	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0.3	—	—
4	静岡県	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0.1	—	—
5	高知県	リウマチ・アレルギー特別対策事業	0	—	—